

福祉ボランティア活動実践校事業及び  
地域ぐるみボランティア活動推進事業

平成27年度

# 活動集



ふれあいネットワーク



社会福祉  
法人

甲府市社会福祉協議会  
甲府市ボランティアセンター

# はじめに

人口減少と高齢化の急速な進展は、消費の減少による経済力の低下や地域のコミュニティの崩壊など市民生活のあらゆる分野に影響をもたらしております。

今、こうした社会の変化に的確に対応し、子どもから高齢者まで障がいの有無にかかわらず、全ての市民が、住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることのできる社会をつくる取り組みが重要になっております。

こうしたことから、甲府市社会福祉協議会では、介護保険や子育て支援などの行政サービスに加え、学生、各種団体、地区社会福祉協議会、ボランティア団体など市民の皆様が一体となり協働して、豊かなまちづくりを支援する新たな仕組みをつくることが極めて重要であると考えております。

こうした考えを具体的に実践する取り組みの一つとして、地区社会福祉協議会が主体的に実施する「地域ぐるみボランティア活動推進事業」を協働して実施するとともに、平成24年度から甲府市立の全ての小・中・高等学校を対象に子どもたちの心豊かな人間形成を図ることを目的として、「福祉ボランティア活動実践校事業」に取り組んでおります。

この度、平成27年度「地域ぐるみボランティア活動事業」及び「福祉ボランティア活動実践校事業」の取り組みを「活動報告集」として作成いたしましたので、今後の地域福祉推進活動の一助としていただければ幸いです。

最後に、この活動にご支援とご協力をいただきました関係各位の皆様方に心から感謝を申し上げると共に、さらなるご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年7月

社会福祉法人甲府市社会福祉協議会

会長 佐藤 健

# 目 次

福祉ボランティア活動実践校事業実施要領	1～2
福祉ボランティア活動実践校一覧	3

## 【平成27年度福祉ボランティア活動実践校】

①甲府市立善誘館小学校	4
②甲府市立山城小学校	5
③甲府市立大国小学校	6
④甲府市立千代田小学校	7
⑤甲府市立新紺屋小学校	8
⑥甲府市立大里小学校	9
⑦甲府市立甲運小学校	10
⑧甲府市立新田小学校	11
⑨甲府市立北東中学校	12
⑩甲府市立北西中学校	13
⑪甲府市立城南中学校	14
⑫甲府市立甲府商業高校	15

地域ぐるみボランティア活動推進事業実施要領	16～17
-----------------------	-------

## 【地域ぐるみボランティア活動推進事業】

朝日地区社会福祉協議会	18～24
-------------	-------

甲府市ボランティアセンターの紹介	25～26
甲府市ボランティアセンター事業の紹介	27
福祉講話講師の紹介	28
高齢者疑似体験セットの紹介	29



# 甲府市社会福祉協議会 福祉ボランティア活動実践校事業 実施要領

## 第1 目的

この要領は、児童・生徒の社会福祉への関心と理解を高め、ボランティア精神を養うため、家庭や地域に開かれた福祉教育と地域に根差したボランティア活動の実践を行う福祉ボランティア活動実践校事業の実施について、必要な事項を定める。

## 第2 実施主体

実施主体は、社会福祉法人甲府市社会福祉協議会(以下「市社協」という。)とし、次のとおり活動を行う。

## 第3 事業

- (1) 「福祉ボランティア活動実践校」(以下「実践校」という。)相互の連絡調整や情報交換を図るための「連絡会議」の開催
- (2) 事業推進に必要な資料、情報の提供
- (3) 事業の取り組み内容の公開(ホームページ等)
- (4) その他事業の効果的な推進を図るために必要なこと

## 第4 実施の期間

事業の期間は、平成27年度から平成29年度までとする。

## 第5 実践校の指定

実践校の指定は、甲府市立の小・中学校並びに高等学校とし、事業期間中一度に限り指定を受けるものとする。

## 第6 助成金

- 1 実践校への助成金は、市社協の予算の範囲内で、1校につき4万円を限度とする。
- 2 指定校への助成は、別に定める事業計画による。

## 第7 助成金の申請

助成金を受けようとする実践校は、次の書類を市社協会長に提出する。

- (1) 福祉ボランティア活動実践校事業助成金申請書 (第1号様式)
- (2) 福祉ボランティア活動実践校事業事業計画・予算書 (第2号様式)

## 第8 実践校の活動

実践校は、目的達成のためにそれぞれの地域及び実践校の実情に合わせて、別紙「活動の例示」を参考にした活動を行う。

## 第9 実績の報告

実践校は、事業年度終了後20日以内に、次の書類を市社協会長に報告しなければならない。

- (1) 福祉ボランティア活動実践校事業実績報告書 (第3号様式)
- (2) 福祉ボランティア活動実践校事業取り組み内容 (第4号様式)
- (3) 福祉ボランティア活動実践校事業収支決算書 (第5号様式)
- (4) 福祉ボランティア活動実践校事業に関わる領収書

## 附 則

この要領は、平成24年4月1日から施行する。

この要領は、平成26年4月1日から施行する。

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

## 別紙「活動の例示」

### ○広報・啓発活動

- ・講演会、上映会、展示会等の開催
- ・学校新聞等の作成、配付及びホームページへの掲載

### ○調査・研究活動

- ・ねたきり高齢者調査、まちづくり点検活動、自然環境調査、災害時等に関する地域環境調査

### ○体験学習等を目的とした実践活動

- ・小地域ネットワーク活動への協力
- ・福祉施設等への慰問・交流活動
- ・地区社会福祉協議会やボランティア団体等地域内の社会福祉関係機関・団体との交流活動
- ・体育祭、文化祭等学校行事への高齢者、障がい者（児）の招待
- ・地域と連携した奉仕活動
- ・国際及び環境問題への取り組み
- ・福祉講話の実施
- ・高齢者疑似体験セット、車椅子、白い杖等福祉体験用具の活用
- ・花、野菜の栽培及び食育の学び
- ・古切手及び牛乳パック、ペットボトルキャップ等の収集

### ○甲府市社会福祉協議会（甲府市ボランティアセンター）事業等への参加

- ・ふれあいチャレンジフェスタ、ボランティア交流会・ボランティア博、ボランティア養成講座、赤い羽根共同募金への協力等

### ○実践校等相互の交流

### ○その他、社会福祉に関する活動



# 福祉ボランティア活動実践校事業 指定校

## 【平成 27 年度～29 年度実施】

No.	学 校 名	指 定 年 度		
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
1	善 誘 館 小 学 校	○		
2	山 城 小 学 校	○		
3	大 国 小 学 校	○		
4	千 代 田 小 学 校	○		
5	新 紺 屋 小 学 校	○		
6	大 里 小 学 校	○		
7	甲 運 小 学 校	○		
8	新 田 小 学 校	○		
9	北 東 中 学 校	○		
10	北 西 中 学 校	○		
11	城 南 中 学 校	○		
12	甲 府 商 業 高 校	○		
1	池 田 小 学 校		○	
2	石 田 小 学 校		○	
3	湯 田 小 学 校		○	
4	伊 勢 小 学 校		○	
5	国 母 小 学 校		○	
6	東 小 学 校		○	
7	相 川 小 学 校		○	
8	千 塚 小 学 校		○	
9	里 垣 小 学 校		○	
10	玉 諸 小 学 校		○	
11	東 中 学 校		○	
12	南 中 学 校		○	
1	貢 川 小 学 校			○
2	中 道 南 小 学 校			○
3	中 道 北 小 学 校			○
4	北 新 小 学 校			○
5	羽 黒 小 学 校			○
6	舞 鶴 小 学 校			○
7	朝 日 小 学 校			○
8	西 中 学 校			○
9	富 竹 中 学 校			○
10	南 西 中 学 校			○
11	笛 南 中 学 校			○
12	上 条 中 学 校			○
13	北 中 学 校			○
合 計		12	12	13

# 平成27年度福祉ボランティア活動実践校事業取り組み内容

## 1 甲府市立善誘館小学校

### 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	あいさつ運動 ベルマーク回収 愛校・愛町作業 給食の牛乳パックリサイクル ボランティアの方による朝の読み聞かせ	8.22 9.3 10.3 10.18 11.11 11.24 11.30 12.17 H28.1.13	PTA 親子奉仕作業 高齢者への手紙 運動会に城東病院・地域の方を招待 琢美地区文化祭への作品出品 2年生生活科秋祭り招待 4年生城東病院訪問交流活動(総合的な学習) 1年生昔の遊びを通して高齢者クラブとの交流 歳末助け合い運動への参加(募金・古切手・タオル回収) タオルは、城東病院へ 書き損じ葉書収集活動
H27.5.8	城東病院訪問(バラの花かごプレゼント) 縦割り花いっぱい活動 (ふれあい公園への花植え・城東派出所へのプランタープレゼント)	3.2 3.3	6年生を送る会へ城東病院の方を招待 6年生愛校奉仕作業
6.1	緑のカーテン設置		
6.24	福祉集会		
6.30	4年生城東病院訪問交流活動(総合的な学習)		

### 2 取り組み事例

本校では、福祉教育の目標として「福祉への理解と関心を深めるとともに、他者を思いやる心の育成を図る」を掲げ、道徳や学級活動、生活科、総合的な学習を通して福祉教育に取り組んできました。

#### (1) 花のプレゼント

5月になると本校のバラ園に色鮮やかなバラが咲き始めます。そこで、児童会や栽培委員会を中心に、バラをアレンジして花かごを作り、城東病院や城東派出所に届けています。さらに縦割り花いっぱい活動では、ふれあい公園へ花を植えたり、城東派出所へ花を植えたプランターをプレゼントしたりしています。この活動は長く続いているので病院の方も派出所の方も楽しみにしてくださっています。相手の方の喜ぶ顔を見て児童もやって良かったという満足感を味わうことができました。



#### (2) 福祉集会

様々な方と出会い、その生き方や考えに触れ、自分自身の生活や生き方を見つめ直す機会にしたいと考え、福祉集会を行っています。



今年は障がいを持ちながらも自分の興味や才能を生かし、コンサート活動を行っている白井麻里奈さんと母親の佐喜子さんをお招きし、歌や演奏、お話を聞かせていただきました。児童は、一言一言に心を込めて語るように歌う麻里奈さんとピアノで伴奏するお母さんの心温まる音楽の世界に引き込まれていきました。一緒に交流する中で、障がいのある方への理解が深まりました。

### 3 1年間の評価と課題

今年度も地域の方々とのふれ合いと福祉集会を柱に福祉教育活動を展開しました。本校児童のために、大勢の安心パトロールの方々が登下校時に児童の見守りをしてくださったり、1年生の昔の遊びの指導にも入ってくださったりしています。それらを通して地域への愛着やそこに住んでいる方々への感謝の心が育ってきています。また、城東病院や派出所へ花や苗を届けることで様々な方々とふれあい、思いやりの心も育ててきていると思います。

福祉集会では、歌や講話を通して、障がいがあっても明るく前向きに夢を追いかける姿勢、笑顔や努力の大切さを学ぶことができました。一人一人の感じたり考えたりしたことが児童の感想から伝わってきましたので、それらを実際の場面で生かすことができるよう続けて指導していきたいと思います。

これからも継続して系統的に教育活動を行い、豊かな心を育てていきたいと考えます。

## 2

# 甲府市立山城小学校

### 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	古切手・使用済みテレフォンカード・書き 損じ葉書収集（ボランティア委員会）	12.3	第2回老人施設訪問 (ボランティア委員会) (児童会執行部)
7.7	第1回老人施設訪問(ボランティア委員会)	12月	歳末助け合い募金呼びかけ
6~10月	アジア・アフリカ救援米 栽培・収穫・送付（5年）		

### 2 取り組み事例

本校では、年2回、委員会活動の時間を使ってボランティア委員会や児童会執行部の児童が、地域の老人施設へ慰問に行きました。本年度は、訪問先が2カ所から4カ所に増え、より多くの高齢者の方々と関わることができました。全校でタオルと石けんを集め、子ども達からの絵や手紙を添えてプレゼントしました。子ども達はクイズやゲーム、音楽発表などを練習し発表しました。

「食とみどり水を守る山城地区市民会議」の方々と連携し、山城地区の休耕田を利用してお米を育て、アジア・アフリカに送る運動をしました。本校では、5年生が関わり、地域の方の力を借りながら田植え、草取り、稲刈りを行いました。近年は、100キロ弱のお米を送っており、10年を超える活動となっています。



### 3 1年間の評価と課題

福祉については継続して取り組んでいる活動が多いです。一年一年の積み重ねで、子ども達の活動内容も工夫され、ふれあい方も上手になってきています。地域との関わりも深められ有効な活動となっています。さらに継続し、思いやりの心を育てていきたいです。

### 3 甲府市立大国小学校

#### 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
6.4	第1回ふれあい花づくり	10.26	第4回ふれあい花づくり
6.18	第2回ふれあい花づくり	11.10	福祉講話
10.9	第3回ふれあい花づくり	H28.3.3	老人福祉施設への花の配布

#### 2 取り組み事例

##### ① 5・6年生 ふれあい花づくり

本校では「ふれあい花づくり」活動を行っています。地域の老人クラブの方と一緒に黒ポットへの土入れや苗の移植作業を通して地域の高齢者との交流を図りました。

さらに、育てた花を地域の方々や老人福祉施設へ配布しました。



##### ② 4年生総合的な学習

総合的な学習「さかせよう 共に生きる心の花」で、アイマスク着用や車いすの乗車などの体験や、やさしいまち調べの活動を行いました。



##### ③ 1～4年生の福祉講話

11月10日に視覚障がいの方をお招きして、生活の様子や盲導犬のことを知るとともに、障がいをもつ方に自分たちができることを考えることができました。

#### 3 1年間の評価と課題

本校の特色である「ふれあい花づくり」やさまざまな福祉講話や福祉体験活動を通して、地域の方々や高齢者、障がいを持つ方などとの交流が図れました。これらの活動を通して、「福祉のこころ」が深まつてきていますが、今後も教科、道徳だけでなく、日常活動の中でも福祉教育をすすめていきたいと思います。

## 4

# 甲府市立千代田小学校

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	朝のあいさつ運動（児童会）、花壇の花植え替え（飼育栽培委員会全校）、給食の牛乳パッククリサイクル、ペットボトルキャップ回収、古切手・書き損じ葉書の回収（児童会）	10.4	運動会へ千代田荘招待
5.26	千代田荘訪問（全校児童）	10.6	千代田荘グランド設備（5・6年生）
6.19	千代田荘との交流（6年生）	10.10	千代田荘運動会手伝い（5・6年生）
7.1	福祉講話	12.16	千代田荘との交流（5年生）
7.14	愛町奉仕作業（全校児童）	12.15	愛町奉仕作業（全校児童）
		H28.2.12	千代田荘との交流（3・4年生）
		3.8	愛町奉仕作業（全校児童）

## 2 取り組み事例

### （1）千代田荘との交流

本校では、長年にわたって地域に根ざしたボランティア活動を実践してきました。その第一に、地域にある社会福祉施設「千代田荘」との交流があげられます。5月の全校交流の後、主に総合的な学習や学級の時間を利用し、学年やブロック毎に交流を深めてきました。各学年ともどのようにして利用者さんを理解し、互いに意義のある活動ができるか真剣に考え計画や準備を進めてきました。具体的には、6年生はEMばかり作り、5年生は絵画教室、3・4年生は劇やゲームといった交流を行いました。また、千代田荘の運動会にボランティアとして参加したり、運動場の整地作業を手伝ったり、競技の係をすることで障がいのある利用者さんたちと交流してきました。



### （2）福祉講話

今年度は、千代田荘の岸本望さん（社会福祉士）をお迎えして福祉講話を行いました。障がいをもつ人達のために働くことの素晴らしさを学ぶことができました。利用者さんが、毎日笑顔で過ごせるために職員のみなさまが頑張っている様子を知る事ができました。



## 3 1年間の評価と課題

今年度も年間を通じて計画的に福祉教育活動を行うことができました。通年で行っている活動も定着してきました。地域にある「千代田荘との交流」に取り組み、自然な形で楽しく利用者さんと交流する様子が見られました。

また、今年度は千代田荘の職員の方の話を聞いたことも大変有意義な経験でした。

今後も「千代田荘との交流」を軸に、ねらいをしっかり持った充実した交流や、愛町奉仕作業として地域での美化活動を通して、思いやりの心を育んでいきたいと思います。

# 5

# 甲府市立新紺屋小学校

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	あいさつ運動 ペットボトルキャップ収集 使用済み切手収集	12月	募金
11月	福祉講話（1～4年生）	12. 6	親子もちつき大会
11.14	新紺屋まつり（児童会）	12.18	聖ヨゼフ寮訪問（4年生）
11.23	八幡神社の清掃活動	H28.1	書き損じ葉書収集

## 2 取り組み事例

本校では、「かしこく、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」の教育目標のもと道徳教育や福祉教育の充実に努めるとともに、地域に根ざした豊かな人間性を培う教育活動を推進することによって、「豊かな心」「思いやりの心」の育成を図ってきました。

### (1) あいさつ運動

校内では、あいさつ隊が各クラスを回って呼びかけるあいさつ運動を行っています。校門では、広く地域の方ともあいさつを通じて交流しようという考え方のもと、登校した際、登校班毎に、後からくる本校の児童にあいさつするだけでなく、通学通勤途中の方にあいさつの声かけを行っています。また、今年度も、北東中学校と連携し、本校の卒業生である中学生と一緒に校門でのあいさつ運動をすることもできました。

### (2) 福祉講話

1・2年生と3・4年生で福祉講話を実施しました。視覚障がいの方と盲導犬をお迎えしました。

講師の方の普段の生活の様子や工夫などのお話を伺い、共に生きるためにできることは何か考える良い機会となりました。

### (3) 新紺屋まつり

昔の遊びコーナーの講師として、毎年地域老人クラブの方をお招きし、けん玉、はねつき、わりばし鉄砲、こままわしといった昔の遊びを教えていただいています。

たてわり活動の一環で、それぞれのたてわり班が、子どもなりに工夫した遊びのコーナーを考え、全校で遊びながら交流を深めるのが趣旨ですが、老人クラブの方にいろいろな遊びを教えていただくことも、子どもたちは大変楽しみにしていて、当日は楽しくふれあうことができました。

### (4) 聖ヨゼフ寮との交流

4年生の国語の学習、総合的な学習の一環で毎年行っています。学習したことをもとに、高齢者とどんな形で交流するか考え、計画しました。手作りプレゼントを渡したり、合奏や踊りを披露したりして楽しい時間を過ごすことができました。



## 3 1年間の評価と課題

地域の高齢者や様々な障がいを持った方々、聖ヨゼフ寮の入所者の方々などとの交流を通して、子どもたちはいろいろな角度から福祉ということについて考えることができました。事前学習での自分たちの思いが、当日の交流に生かされ、充実感を持つことができました。今後も体験的な活動を通して、子どもたちの心に感動を与える、豊かな心や共に生きる力を育む教育活動を継続していきたいと考えています。

# 6

# 甲府市立大里小学校

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	ペットボトルキャップ・古切手・書き損じ はがき・ベルマーク・使用済みテレホンカード回収 あいさつ運動	H27.12	赤い羽根共同募金
H27.11	施設訪問「快晴苑」	H28.2	福祉講話
H27.11	歳末たすけあい運動		

## 2 取り組み事例

2月に福祉講話を実施しました。聴覚障がいの方の実生活についてお話を聞きました。子どもたちは真剣にお話に耳を傾け、手話でのあいさつの仕方や海外の手話について、仁科さんが実際に苦労していること、コンビニでの買い物風景を体験させていただき、とてもよい経験になりました。



## 3 1年間の評価と課題

今年度の事業を受けて福祉講話が開催でき、とてもよかったです。福祉の心や思いやりの気持ちを学ぶことができ充実した学習になりました。

福祉委員会の活動においては、児童が率先して活動し思いやりの気持ちを持つことができ充実した活動を行うことができました。

今後も校内での活動をより盛んに行いボランティアを広めて行きたいと思います。

# 7

# 甲府市立甲運小学校

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	あいさつ運動 ペットボトルキャップ収集 美化委員会による栽培活動	9.4 9.17 10.21 11.13 11.18	2年生福祉講話「吉川さんと盲導犬」 3年生福祉講話「小池さんと車いす」 5年生親子活動「いのちの授業」 1年生福祉講話「しゅわってなに？」 4年生福祉講話「スルーネットピンポン」
6月	親子クリーンアクション		
9月	「敬老の日」の手紙		
12月	老人クラブとの交流		

## 2 取り組み事例

### (1) 児童会活動

年間を通して、児童会を中心としたあいさつ運動や委員会が中心となって行うペットボトルキャップ収集や栽培活動などが定着してきています。特にあいさつ運動には全校一丸となって取り組んでいるために児童の意識も高まり、朝は、教室や学校中にあいさつの声が響き渡っています。



### (2) 福祉講話

今年度は、1年から5年の5学年で福祉講話をを行うことができました。各学年ごとに福祉講話をを行うことができましたので、それぞれの発達段階に合わせた内容のお話を聞くことができました。なかなかふれあう機会の少ない障がいのある方からのお話は、もし町で出会ったらどうしたらよいのかとか、自分の生活からは想像できないような生活の様子を知る機会となりました。障がいについての理解につながる活動として大変有意義だったと思います。



## 3 1年間の評価と課題

毎年継続的に行っている児童会を中心としたあいさつ運動や助け合いなどの活動については、日常活動となりつつあり、児童の間に定着してきています。さらに積極的に活動に参加する意識がもてるよう今後も活動に取り組んでいきたいと思います。

また、今年度は5学年で福祉講話や高齢者との交流を実施できたので障がいのある方を身近に感じることができました。ともに助け合いながら生活していくためには、自然体で接することができるようになる必要があると考えますが、そのためにはこうした機会をもつことが大切だと感じました。

それぞれの学年に応じた福祉講話を毎年実施できるとよいのですが、予算の関係で毎年実施できないことが残念です。継続した取り組みができるとより有効だと感じます。

## 8

# 甲府市立新田小学校

### 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
5.11	第1回甲府支援学校との交流会(打ち合わせ)	11.2	第2回甲府支援学校との交流会(打ち合わせ)
6.9	第1回甲府支援学校との交流会	11.18	第2回甲府支援学校との交流会

### 2 取り組み事例

本校では、福祉教育の一環として、甲府支援学校との交流会が、年二回、5年生の教育課程に位置づけられています。

まず両校の担当教諭による事前打ち合わせを行い、次に支援学校児童と本校児童の自己紹介カード（DVD）【6グループ】で交換し、そこでどのような活動を一緒にしていきたいかを考えました。初めて一緒に活動するため、何ができるのか？と、最初はとまどいを隠せない児童も多数見られました。悩みながらグループで話し合って、ボーリングや魚釣りゲーム、モグラたたきゲームなどを計画しました。そして、5月11日の事前打ち合わせで、支援学校の先生方に本校へ来校いただき、自分たちの考えた計画を提案する。ここで、どのような活動を行うか、最終決定していきました。

一回目の交流会を終え、振り返りを行い、二回目の交流会ではどのような活動をしていきたいかを考えました。支援学校児童の様子もある程度把握できたため、二回目の交流会に向けての取り組みは、一回目よりスムーズに進めることができました。

二回目の取り組みとして、ただ本校児童が考えた遊びやゲームを楽しむのではなく、支援学校児童が普段、活動していることを、本校児童が体験するといった取り組みも、二回目の交流会では見られました。これは、支援学校の先生方からのアドバイスで企画されたものでありました。また、活動の最後に『終わりの会』をしたわけですが、前述の通り、本校児童の計画した活動ばかりでは物足りなさを感じ、参加児童全員で、一緒に何かをして終わりたいと提案したところ、支援学校からは発表会で演じた劇の一幕の歌と一緒に歌つたらどうかという返答をいただくとともに、発表会のDVD画像をもとに、その歌に併せて振り付けを新田小児童が覚え、一緒に踊ることができました。

『共生』という大きなテーマのもと、取り組みを行ってきたわけですが、本校児童にとって、有意義な、かけがえのない時間になったと実感しています。

### 3 1年間の評価と課題

二回の交流会を振り返り、子どもたちが、相手の立場を考慮して活動内容を考えることができたということが、まず大きな成果といえます。また、事前打ち合わせで、自分たちの活動に必要な物のミニチュアを用意し、プレゼンすることもできました。これも大きな成果といえます。課題として、二回の活動で学んだ事をいかに実生活に生かしていくかが、今後の大きな課題といえます。

# 9

# 甲府市立北東中学校

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	北口清掃	10～11月	赤い羽根共同募金協力
通年	ペットボトルキャップ・古切手・使用済み テレカ等収集	10.3	赤い羽根街頭募金活動協力
5.30	親子クリーンアクション参加	10.17	きりの子まつり参加
7.25	ふれあいチャレンジフェスタ参加	11.23	地域清掃参加
		H28.1	書き損じ葉書収集

## 2 取り組み事例

### (1) 北口清掃

福祉厚生委員が企画し、ほぼ1ヶ月に1度の割合で、土曜日の朝6:30（冬季は7:00）から甲府駅周辺の清掃を行いました。北東中学校の伝統的なボランティア活動ですが、現在では、全生徒の半数以上が参加しています。また、清掃範囲も徐々に広がり、今年は、武田通り新紺屋小東の交差点から駅の北口歩道橋、県立図書館東側の通り、甲府駅北口山手御門北側芝生広場、せせらぎ水路、甲府駅南口周辺を各学年で分担して清掃しました。



### (2) きりの子まつり参加

例年、中学校の新人体育大会が重なり、なかなか協力をすることことができなかった附属特別支援学校のきりの子祭りでしたが、今年は、生徒会本部と福祉厚生委員の3年生が参加しました。支援学校の児童・生徒が行う劇の最後に、彼らと共に、「あなたに会えて」を歌い、劇を盛り上げることができました。



## 3 1年間の評価と課題

甲府駅周辺は、北口清掃も一助となり、ごみが少なくなってきたように思います。参加人数も増えてきましたが、中には友達が行くから自分も行くといった消極的な参加をする生徒も見られるようになってきました。生徒数も減り、ペットボトルキャップなどの収集量も減りつつあります。困っている人に手を差し伸べたいという気持ちを本心から持つて活動ができるように学校教育活動全般の中で生徒を育てていきたいと思います。

10

# 甲府市立北西中学校

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	ペットボトルキャップ収集	12月	福祉講話（1年生）
6月	古切手・書き損じ葉書回収		特別養護老人ホーム「志麻の郷」訪問②
8月	特別養護老人ホーム「志麻の郷」訪問①		赤い羽根共同募金
10月	赤い羽根共同募金 歳末助け合い街頭募金 古切手・書き損じ葉書回収	H28.1月	歳末助け合い街頭募金 古切手・書き損じ葉書回収

## 2 取り組み事例

### （1） 福祉講話

今年度は福祉講話を実施することができました。お招きした講師は全盲の長沢誠氏です。1年生の道徳授業の一環として、「本当の強さ」をテーマに講話していただきました。「本当の強さ」について考える中で、生徒が第一学年における友達関係を見つめ直す機会となりました。



### （2） 特別養護老人ホーム「志麻の郷」訪問

特別養護老人ホーム「志麻の郷」に夏季休暇中に4回、2学期終業式後に1回、訪問しました。ふれあい委員会を通じて全校に呼びかけ、参加者を募りました。活動内容は、ちぎり絵や風船バレー、吹奏楽部によるミニコンサート、絵本の読み聞かせ、プレゼント贈呈などでした。生徒たちは活動を通して、高齢者との関わり方を知り、楽しみながら活動に参加できていました。



## 3 1年間の評価と課題

今年度は、収集活動全般に力を入れて活動を展開することができました。全校にどう呼びかけたら、収集量を増やすことができるのか、委員会を中心に試行錯誤をくり返しました。結果的にはどのクラスも収集量を増やし、全校でボランティアに取り組む雰囲気をつくることができたと感じています。

また、これまでの活動に加えて、福祉講話を実施することが出来ました。今後も継続して福祉講話を企画していきたいと考えています。

# 11 甲府市立城南中学校

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
7.15	特別養護老人ホーム「快晴苑」訪問	12.12	歳末助け合い街頭募金活動参加
8.10	「快晴苑」訪問	12.22	「快晴苑」訪問
10.23	ふれあい集会（福祉講話）	H.28.1	書き損じ葉書収集

## 2 取り組み事例

### 「ふれあい集会」の取り組み

本年度 29 回目となる「ふれあい集会」は、城南中学校の特色ある行事の一つです。

全 23 学級にお一人ずつ障がいをもつた方を講師としてお招きし、その方のお話を伺い、一緒に活動することで、講師の先生方の生き様にふれ、自分を見つめ直す機会を持つことが目的の一つです。このことは「自他を尊重し、他の人を思いやる心や社会貢献の精神」を育むことにも深く関わると考えられます。生徒主体で取り組む事前学習（アイマスクや白い杖・車いす体験等）や道徳の時間の心の揺さぶり、そして間近で熱く語る講師の方々の話をとおして、助け合うことの大さに気づきお互いの個性を認めることができるような、より豊かな人間性を育てていくことにつなげたいと願い取り組みました。

「ふれあい集会」の取り組みをとおして、同じ社会の中で、全ての人が何らかの役割を担い、互いに支え合い、助け合って、「共に生きていく」ということを感想に書いている生徒も数多くいました。

また当日は授業参観のかたちをとり、親子で考えるきっかけともなりました。



## 3 1 年間の評価と課題

一年間、生徒会のふれあい委員会を中心に取り組みました。快晴苑訪問・歳末助け合い募金活動への参加、書き損じ葉書の収集活動などで、福祉・ボランティア活動への意識は高まって来ています。来年度以降も、今年度の反省をもとに改善し、発展的な活動にしていきたいと考えています。

## 12

# 甲府商業高等学校

### 1 主要行事

年月日	行 事 名
5.16	老人ホーム慰問
7.10	あけぼの支援学校交流会

### 2 取り組み事例

5月16日に本校吹奏楽部による老人ホームへの慰問演奏会が行われました。数年前に途切れた行事ではありますが、本年度より復活することができました。在校生及び顧問にとっては初めての経験であり、喜んでもらえることで、一つの大きな空間を演出でき、同時にお互いに心のパワーを感じ取ることができました。



7月10日にあけぼの支援学校にて、本校とあけぼの支援学校及び日本航空高校との三校交流会を行いました。本校はインタークト部の部員20人が参加し、5班に分かれ活動を行いました。



### 3 1年間の評価と課題

主要行事としては、先の取り組み事例ですが、それぞれ単発の行事であり、継続性という面からは今後の課題が残り、年間を通して活動できる内容を増やしていくことを検討していきたいです。また、全校800人超の生徒を対象に行うには、課題も残ります。ただ、今回のことを通して生徒の心に変化が生じたことは、大きな成果です。

# 甲府市社会福祉協議会 地域ぐるみボランティア活動推進事業 実施要領

## 第1 目的

少子・高齢化の進展や核家族化問題により、大人も子供もライフスタイルが多様化し、地域社会のつながりが希薄になっていると言われております。

これまで甲府市社会福祉協議会では、命の大切さや地域で共に安心して暮らし続けられる地域社会の再構築や、子供たちを始めとする地域における「福祉のこころ」を醸成するため、学校や地区社会福祉協議会を始めとする関係団体が連携して進める福祉教育の推進やまちづくりを支援することを目的として、山梨県社会福祉協議会指定による「福祉のこころ醸成事業」そして、本協議会独自による醸成事業を単年度で行ってきました。

今までの成果を踏まえ、継続的に福祉教育を推進する事業を地区社会福祉協議会と学校、その他関係団体・機関等が連携して行えるよう支援することを目的として、この要領を定める。

## 第2 実施主体

社会福祉法人 甲府市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）とする。

## 第3 推進主体

市社協が指定した地区社会福祉協議会（以下「地区社協」という。）とする。

## 第4 事業内容

(1) 指定期間 4月1日から翌年の3月31日まで

(2) 指定地区社協数 1年度につき1地区社協

(3) 実施内容

### ①福祉教育推進委員会の設置

指定された地区社協は、活動の母体となる福祉教育推進委員会を設置し、実施内容を検討・選択、活動の企画、準備、運営、今後の展開についての検討を行う。

○委員構成案 ア 学校 イ 教育委員会 ウ PTA エ 民生委員・児童委員

オ 自治会 カ ボランティア団体 キ 企業 ク 学識経験者

ケ 行政 コ 地区社協 サ 市社協

### ②学校との連携による「命の授業」の実施

### ③地域における福祉教育の取り組み

福祉教育推進委員会が中心となり、学校や地域の関係者と連携して地域における福祉教育の取り組みを図る。

## **第5 助成の申請**

地区社協は、第1号様式及び第2号様式を市社協に提出しなければならない。

## **第6 助成金の交付**

市社協が指定した地区社協へ助成金を交付する。

## **第7 助成金の経理等**

助成金の交付を受けた地区社協は、助成金の経理等を次により処理しなければならない。

- (1) 助成金は、その使途を踏まえて活用すること。
- (2) 助成金は、地区社協予算に計上し収支費目を明確にして会計処理すること。
- (3) 助成金の収支に係る証憑書類（振込通知書、領収書等）を整備しておくこと。

## **第8 助成金額**

該当年度の予算の範囲内とする。

## **第9 実績の報告**

事業年度終了後20日以内に第3号様式及び第4号様式を市社協に提出する。

## **附 則**

この要領は、平成24年4月10日から施行する。

# 平成27年度「地域ぐるみボランティア活動推進事業」 実績報告書

## 朝日地区社会福祉協議会

### 1 福祉教育推進委員会

委員構成	17人	(1) 朝日小学校校長・教頭・担当教諭・PTA会長 (2) 朝日地区社会福祉協議会会长・副会長・事務局長・会計 (3) 朝日地区自治会連合会会長・女性部長 (4) 朝日地区民生委員児童委員協議会会长 (5) 朝日地区青少年育成推進協議会会长 (6) 朝日地区食生活改善推進委員会会长 (7) 甲府市社会福祉協議会地域福祉推進課課長 甲府市社会福祉協議会地域福祉推進課ブロック担当係長 甲府市社会福祉協議会甲府市ボランティアセンター所長
開催期日	内 容	
5.19 (火)	<b>第1回推進委員会</b> 朝日小学校の年間行事の確認を行い、連携事業の計画を立案した。 また、推進委員会参加各団体の支援協力を確認した。	
9.4 (金)	<b>第2回推進委員会</b> 朝日小学校から子どもが落ち着いてきて、良い2学期のスタートが切れた、などの報告を受け、事業が計画通り順調に進んでいることを確認した。 また、今後の計画について話し合われた。山日新聞に取り上げられた事業もあった。	
H28.3.7 (月)	<b>第3回推進委員会</b> 年間活動に対する朝日小学校よりの感謝が述べられ、来年以降も継続してほしい、との強い要請があった。参加者全員の発言を受け、来年度以降も、各団体とも事業に参加し取りくむことが決定された。	

### 2 地域ぐるみボランティア活動推進事業 実施内容「生命の授業」

期 日	会 場	内 容
5.20	朝日小体育館	視覚障がいの方と盲導犬との交流 2年生の児童に佐藤学様の日常生活の様子と盲導犬チエロとの関わり方について話をもらいました。盲導犬が、歩行をどのように助けているか実際の様子を見せてもらいました。また、児童は、普段は関わることのない盲導犬に触れることもでき、とても感激していました。



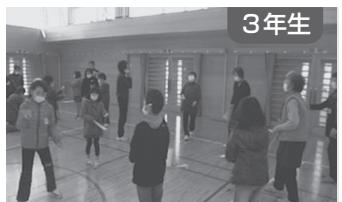
7.15	朝日小教室	<b>戦争体験講話 平和学習</b> 4年生に地域の高木ふく子様、浅川保様が戦争体験の話をしました。高木様は、朝日地区で甲府空襲を体験されました。その甲府空襲の生々しい体験談を聞き、児童に戦争の悲惨さを知ってもらう事ができました。自分の住んでいる地域の名前が出てくることで、より身近に感じることができたようです。	
10.29	朝日小教室	<b>戦争体験講話 平和学習</b> 6年生に、地域の戦争体験者が話をしました。6年生を対象としたので、空襲を体験された地域在住の服田尚隆様や雨宮愛子様にもお話をいただきました。甲府空襲の生々しい体験談を聞き、戦争の悲惨さを知ってもらいました。自分の住んでいる地域でも戦争が行われ、犠牲になられた方がいらしたことは児童の心を揺さぶりました。実際に体験した地域の方に語ってもらうと、これからを生きていく児童に皆の思いがストレートに伝わります。	
12.9	朝日小体育館	<b>視覚障がい者の方と盲導犬との交流</b> 6年生の児童を対象にして、盲導犬との日常生活や盲導犬の特性について、お話を聆きました。児童からもたくさんの質問が出され、少しでも佐藤学様とチェロのことを知りたいという思いが感じられました。盲導犬のチェロに触れることにより、さらにチェロへの親しみがわいたようです。多くのことを学んだとの感想がたくさん出されました。	
H28.2.4	朝日小教室	<b>命の学習</b> 命の始まりから、母親のお腹の中で大きくなっていく様子、母親が気をつけていることなどについて、大型TVを使用しながら、保健師さんから説明を受けました。また、赤ちゃん人形を抱いたり、赤ちゃんが大きくなっていく過程の模型を見たりして知識を深めました。自分の命と同様に、友だちも大切な命を持っていることを考えさせる授業でした。	

### 3 関係者が連携しての事業

期 日	会 場	内 容
5.20	朝日小校庭	<p><b>さつまいも苗植え</b></p> <p>2年生の児童にさつまいもの苗植えの指導をしました。児童一人ひとりに手を取りながら、やさしく教えました。一緒に苗を植える活動をする中で、今後も一緒にさつまいもの成長を観察したり、収穫をすることになりました。児童もさつまいもの成長を楽しみにしています。</p>
5.29	地 域	<p><b>地域探検（学校西側）</b></p> <p>3年生が朝日地区の様子を探検（観察）する活動に地域の方と同行しました。グループが9つあり、各グループに民生委員児童委員の方が1人ずつついて朝日地区の西側を探検しました。一緒に地域を歩く中で地域の様子をそれぞれの場所で詳しくお話ししました。活動の中で、お互いの名前を覚えて、ふれあいを深めることができました。児童はとても楽しそうでした。</p>
6.5	地 域	<p><b>学校探検（学校東側）</b></p> <p>3年生が朝日地区の様子を探検（観察）する活動に地域の方と同行しました。グループが9つあり、各グループに民生委員児童委員の方が1人か2人ずつついて朝日地区の東側を探検しました。一緒に地域を歩く中で地域の様子をそれぞれの場所で詳しくお話ししました。活動の中で、お互いの名前を覚えて、ふれあいを深めることができました。児童は、前回よりも民生児童委員の方に慣れて生き生きして、とても楽しそうでした。</p>
6.30	朝日町商店街	<p><b>朝日町商店街と七夕飾りの見学</b></p> <p>2年生が朝日町商店街を訪れ、お店と七夕飾りの様子をグループで見学しました。七夕飾りは、2年生が書いた願い事が飾られています。その様子を児童と一緒に見学しました。自分の書いた願い事を見つけては、歓声を上げていました。願い事を確かめながら、引率した方々と話も弾んでいました。</p>

7.8	朝日小北側歩道	<b>地域の人たちと一緒に花植え</b> 1年生が花の苗植え活動に参加しました。苗の植え方をやさしく教えたので、児童もうれしそうでした。花の苗と一緒に植えることによりふれあいが深まります。また児童は、自分が植えた花が大きく成長する様子を楽しみに生活できます。地域とのつながりを児童も少しづつ意識してきているようです。	 1年生
9.8 15 16	朝日小家庭科室 同 上 同 上	<b>ミシン指導（前掛け）</b> 6年生の家庭科学習の指導を3日間しました。ミシンでのエプロン作りの学習でした。2人に1人程度つききりで指導しました。 仕上がりも上手にできました。児童も大変満足していました。終わりに見事に出来上がったエプロンを身に付けて指導した皆の前でファッショショーンショーを行いました。	 6年生
10.27	朝日小校庭	<b>さつまいも掘り</b> 2年生のさつまいも掘りの指導をしました。児童は、5月に一緒に植えたさつまいもを収穫するのを楽しみにしていました。当日は良いお天気でした。どきどきしながら、土を掘ると、びっくりするくらい大きなさつまいもが収穫できました。児童も地区の方々も大喜びでした。また、さつまいもの茎を使ってリースも作りました。	 2年生
10.22 29	朝日小家庭科室 同 上	<b>ミシン指導（ナップサック）</b> 5年生の家庭科学習の指導を2日間しました。ミシンも使いながらのナップサック作りの学習でした。家庭科で針やミシンを使う事が初めてで慣れていませんでしたが、児童2人に1人程度つききりで指導しました。仕上がりも上手にできました。児童も大変満足した様子でした。終わりに、出来上がったナップサックを身に付けて指導した皆の前で披露をしました。	 5年生

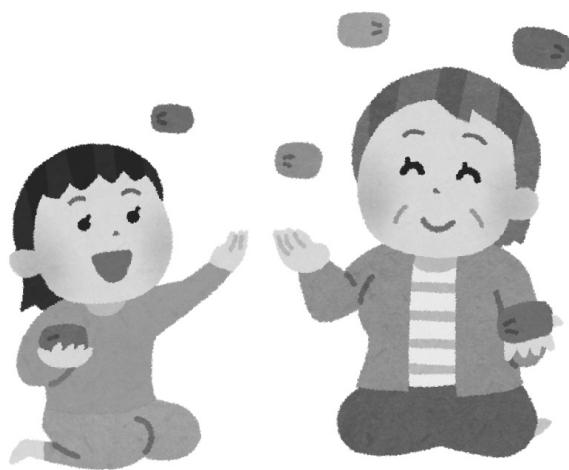
11.12	消防署	<b>朝日消防団による消防車の話</b> 1年生が国語の学習で消防自動車の見学をしました。消防団長の横森克美様から、消防車の役割や仕組みをお聞きしました。国語の本で学ぶだけではなく、間近に消防自動車を見ることができたので、児童は大喜びでした。消防自動車の写真や絵ではわからない、実物の良さを実感しました。	
11.13	朝日小北側歩道	<b>地域の人たちと一緒に花植え</b> 1年生が秋の花の苗植え活動に参加しました。地域の方々が指導しながら花の苗を植えました。春の時より手際が良くなっていて感心しました。今後も児童は、植えた花が大きく成長する様子を楽しみに生活できます。別れ際に地域の方々と握手やハイタッチをするほど親しくなりました。楽しい花植え活動になりました。	
11.27	朝日町商店街	<b>朝日町商店街で買い物</b> 2年生が朝日町商店街を訪れ、買い物をしながら、ふれあい体験をしました。地域の方が付き添ってグループで見学をしました。地域の方々が、それぞれのお店の特徴を教えてました。児童だけで見学していたのでは気付かないことも教えることができました。民生委員の方々とは何回も交流しているので、顔見知りとなり話も弾んでいました。	
12.21	朝日小家庭科室	<b>ほうとう作り</b> 郷土食であるほうとうを食生活改善推進委員の皆様にご指導いただきながら、5年生が料理しました。地粉をこねて、のばして、麺にする過程を実演していただきました。初めて見る児童も多くて、あざやかな手さばきに拍手が起きました。自分たちで料理をして、地域の皆さんと一緒に食べました。とてもおいしかったので、笑顔もいっぱい、会話もいっぱいで、本当に楽しいひとときでした。	

H28.1.26	原山神社	<b>原山神社探検</b>  地域の行事や昔探しで原山神社を探検しました。学校の近くにある原山神社には古くから伝わるお祭りがありますが、それについて知っている児童は少ないです。そこで、講師の服田尚隆様から、原山神社で行われている行事やその言われについてお話ををしていただきました。原山神社がうなぎ神社と言われる理由についてもお話しがあり、児童は大変興味深くお話を聞いていました。地域を大切に思う方々の気持ちに、児童はふれることができたと思います。	
2.17	朝日小体育館	<b>昔の遊び</b>  昔の遊び（はねつき、めんこ、こま、折り紙、けん玉、ヨーヨー、おはじき、ビュンビュンごま、だるま落とし、あやとり等）を地域の方々が指導しました。どの遊びも、手先を使ったり、知恵やコツが必要であつたりして、なかなか難しかったようです。児童は、すぐに地域の方と親しくなり、手取り足取り丁寧に指導しました。昔の遊びは難しいけれど、挑戦のし甲斐のある遊びばかりで、大変気に入ってくれたようです。また、昔の話ということで、戦争中のことを服田連合自治会長様からお話をしてもらい、メモを取りながら熱心に聞いていました。	

#### 4 1年間を振り返ってみて（成果及び課題等）

- ① 19の事業が22日間にわたって行われ、各団体から延べ400人近い地域の皆さんに協力していました。核家族化が進み、地域の大人と交流する機会が少なくなる中、児童も1年間にわたって地域の大人とふれあい、地域の歴史や文化を学ぶことができたのは有意義だったと思います。参加者からは「楽しかった」「良い経験をした」「児童が可愛かった」などの感想が口々に語られました。児童の変化も挨拶などに現れるようになりました。
- ② 参加各団体は、各々の事業に責任を持ってあたると共に、大人数が必要な時には、積極的に協力し、人員を出すなど全体として大変良好な関係が築けました。このことは、事業推進の原動力になると共に、第3回推進委員会の反省で出された事業継続の前向きな発言に結びつきました。

- ③ 民生委員児童委員協議会のように、見守りや諸行事への参加で学校と深くかかわってきた団体ばかりでなく、従来学校とは比較的関係の薄い諸団体からも、本年度限りの事業にせず継続すべきとの意見が出され、自治連合会、各団体協力の下、来年度以降も独自の事業として取り組むことになったことは、単に学校との取り組みというだけでなく、地域福祉事業にも良い影響を与えるものと思います。社会福祉協議会としても来年度は予算化などを図り具体的な計画を盛り込むことになりました。朝日地区各種団体の全面的なご支援・ご協力により学校教育活動の充実を図ることができ、まさに、「地域の子どもは地域が育てる」を実践することができたと思います。



# 甲府市ボランティアセンターの紹介

## 甲府市ボランティアセンターとは

甲府市ボランティアセンターは、「ともに生き、ともに支えあうまちづくり」を目指し、広く市民にボランティア活動の実際を周知するとともに活動の拠点として、ボランティア活動に関する広報・啓発と情報の収集・提供などの推進事業を掲げ、基盤整備の充実を目指して、ボランティア活動への参加のきっかけづくり、また参加者の技術や知識・得意分野などを地域で生かせる仕組みづくりのお手伝いをしています。

## 運営の仕組み

甲府市ボランティアセンターは平成6年4月1日に甲府市により設置され、甲府市社会福祉協議会によって運営されています。

## ボランティアについての相談・登録・紹介

「ボランティア活動をしたい人」、「ボランティアの協力を必要としている人」といった方々やグループ等からの相談を受け、コーディネートします。



## 活動の基盤づくりの援助

- ・ボランティア・NPO団体への支援
- ・高齢者疑似体験学習の指導と機材の貸し出し
- ・ボランティア活動機材の貸し出し（車いす・白い杖・アイマスク・紙芝居・積木セットなど）
- ・小・中・高校の福祉教育学習への協力
- ・ボランティアグループの会議や活動の場としてボランティアビューローの開放
- ・ボランティア活動中の万一の事故に備えて各種保険への加入窓口

## ボランティア活動の情報収集や情報の提供

- ・ボランティア情報紙「甲府市ボランティアだより」の発行（年2回）
- ・ボランティアボード及び新聞等でのボランティア情報の提供
- ・「ホームページ」や「まごころ（こうふ社協だより）」での情報の提供
- ・「甲府市ホームページ」や「広報こうふ」でのボランティア情報の提供

ホームページアドレス <http://www.kofu-syakyo.or.jp/>  
甲府市社会福祉協議会のホームページよりアクセス願います。



## 育成・研修ボランティア講座の開催

- ・福祉への理解、知識を深めるための各種ボランティア講座の開設  
(講座を修了された方々がグループを作る際のお手伝いもします)

## 古切手・牛乳パック・ペットボトルキャップ 不要入れ歯等の収集の窓口

取りまとめてそれぞれの引き取り手にお渡しします。



# 甲府市ボランティアセンター事業の紹介

## ふれあいチャレンジフェスタ（中・高校生と障がい児・者ふれあい交流会）

チャレンジフェスタは、障がいのある方もない方も、共に楽しい1日を過ごすことを目標に毎年開催しているイベントです。主に障がいのある方は、日頃の練習の成果を舞台で発表し、中学生・高校生には、自分たちで企画した内容（おもちゃ作り・わなげなど）でブースの運営を担当していただいています。ステージを見たり、ブースと一緒に遊んだり、1日中楽しむことのできるイベントです。



## ボランティア交流会・ボランティア博

甲府市社会福祉協議会、甲府市ボランティア団体連絡協議会、甲府市内大学交流ネットワークの三者共催によるボランティア活動の啓発イベントを開催します。ボランティア団体や大学生が日ごろのボランティア活動の成果の発表を行い、ブースを設けて工作コーナーなどで参加者と交流します。



お問い合わせは甲府市ボランティアセンターまでお願いします。

TEL 055-223-1061  
FAX 055-231-6061

# 福祉講話講師の紹介

次の方を講師として紹介しています。

- ◇肢体不自由者（車いす使用）……歩行が困難な方の車いすでの生活実態
- ◇視覚障がい者（盲導犬同伴）……目が不自由な方の生活実態と盲導犬の役割
- ◇聴覚障がい者（手話）…………耳が不自由な方の生活実態と、  
手話を用いてのコミュニケーション方法
- ◇環境教育支援団体……………環境について考える
- ◇災害・防災ボランティア団体……被災地での支援、現状、災害防災についての日頃の備えなどを学ぶ
- ◇ボランティア活動実践者…………様々な年代の方が色々なボランティア活動を展開しています  
活動内容や実践者として講話

講師の紹介については、甲府市ボランティアセンターへご連絡ください。

TEL 055-223-1061  
FAX 055-231-6061



# 高齢者の体と心を体験してみよう!!

## (高齢者疑似体験セット)

### 目的

#### 1. 高齢者の心を思いやる

グッズを付ける事によって、手足が上げにくかったり、屈伸ができなくなったりします。また、耳が遠くなり、目も白内障のためかすみ、見えにくくなります。そうした身体機能の低下を体感する事を通して、高齢者の心理状態を忖度し、高齢者を理解するための「福祉のこころ」の醸成を図ります。

#### 2. 介助者の役割を理解する

疑似体験セットを装着して体験してみると、介助される側、介助する側にも個人差があることに気が付きます。このため、介助者は基本的には自立支援を目的とするので、体験者に必要以上に手を出さないことが大切であり、観察者は「体験者の様子はどうか」「介助の仕方は適切か」などをしっかりと観察し、体験後に助言すると共に体験時間の調整を図る必要があります。このように、疑似体験では、高齢者や介助者の役割を通して、介助者がどのようにサポートするのが適切なのか、自分なりのノウハウを見つけるきっかけとします。

#### 3. バリアフリーの必要性を学ぶ

高齢者疑似体験セットは、自分が高齢者になったときの心身の状況を体験するものです。重りをつけた手足を無理やり動かしても意味がありません。「高齢者になった」という自己暗示をかけて臨むことが大切です。普段は何気なく歩いている段差などを、実際に疑似体験セットを装着して体験することで、その危険性を認識し、高齢者が日常生活を営む上でのバリアフリーの必要性を学ぶきっかけとします。



▲写真右【高齢者疑似体験セット】

◀写真左【高齢者疑似体験セット装着】



**福祉ボランティア活動実践校事業及び  
地域ぐるみボランティア活動推進事業活動集  
(市社協指定実践校・指定地区社協)  
～平成 27 年度～**

平成 28 年 7 月 発行  
社会福祉法人  
甲府市社会福祉協議会  
甲府市ボランティアセンター  
〒400-0858 山梨県甲府市相生 2-17-1  
TEL : 055-223-1061 FAX : 055-231-6061  
E-MAIL : k-vc@kofu-syakyo.or.jp



※この活動集は、赤い羽根共同募金配分金により作成しました。